

市内工事
松轄
浜直

入札ボンド導入検討

中部整備局 対象額設定に課題も

中部地方整備局は、浜松市内で実施する直轄工事の入札ボンド導入の可否を検討している。今年4月から浜松市が3億円以上の工事に入札ボンドを試用導入したことに伴うものだが、対象金額の設定など検討課題も多いため、導入可否の判断にはしばらく時間がかかると見られる。

国土交通省は4月、各整備局に対して直轄事業の入札契約事務の執行に關する通達を行い、入札ボンド制度の活用に関し、地方公共団体等における導入状況を踏まえて「地方公共団体等における導入状況を踏まえて」と3億円以上の工事については、同市が基準とする対象拡大を図ること」と中

松市内業者の規模や業種などの分析や、他自治体への影響も考慮する必要があるとしており、十分検討した上で判断する考えだ。

浜松市が第1弾として入札ボンドを導入したのは、▽横志小学校校舎改築工事▽双葉小学校校舎改築工事▽入野中学校校舎増築工事▽大田代団地建て替え工事第1期建築工事の4件。いずれも総合評価方式で5月19日

に入札が行われ、落札者が決定した。入札参加者が利用した発行機関は損害保険会社、金融機関、保証会社など。現金を利用したのは1者で、4件すべての入札に参加していた。

浜松市以外の管内の主な自治体の導入方針をみると、愛知県、岐阜県、三重県、静岡県は「他発行機関の動向を踏まえて検討」、名古屋市は「導入予定なし」という状況だ。

中部整備局は昨年度に実施したWTO案件27件（うち1件再公告）を入札ボンドの対象とし、延べ196者が入札に参加は、損保会社98者、保証現金1者となっている。